

鳥取県健康対策協議会肝臓がん対策専門委員会

- 日 時 令和7年3月1日(土) 午後2時15分～午後3時15分
- 場 所 倉吉交流プラザ 倉吉市駄経寺町
- 出席者 25人
孝田委員長
大山・岡田・岡野・河津・陶山・谷口・角田・永原・福羅・前田和・前田直・松木・松田・満田・三好・山下・渡邊各委員
県健康政策課がん・生活習慣病対策室：川本室長、上田課長補佐、東原係長
健対協事務局：岡本事務局長、岩垣次長、田中係長、廣瀬主事

【概要】

- ・令和5年度肝炎ウイルス検査は、19市町村で実施し、対象者数205,618人のうち、受診者数は3,857人、受検率は前年度と同じく1.9%であった。
検査の結果、HBs抗原陽性者は46人で陽性率1.2%（前年度0.8%）、HXCv抗体陽性者は8人で陽性率0.2%（前年度0.3%）であった。
精検受診者は34人であり、精検受診率は63.0%で、昨年度に比べ7.2ポイント増加であった。精検の結果、肝臓がんだった者は昨年度と同じく0人であった。
精検受診率の地区別では、東部92.3%、中部31.3%、西部68.0%であった。
- ・肝臓がん検診により発見された肝炎ウイルス陽性者に対しての定期検査結果は、B型肝炎ウイルス陽性者の定期検査受診者は913人、C型肝炎ウイルス陽性者の定期検査受診者は255人であった。
- ・肝臓がん検診及び定期検査による発見がん患者追跡調査結果について、肝炎ウイルス検査による発見がんはなく、定期検査によ

る発見がんまたはがん疑いは、B型肝炎ウイルス陽性者から肝臓がんが1人、C型肝炎ウイルス陽性者から肝臓がんが3人である。

- ・鳥取県肝疾患専門医療機関の指定について、東部1医療機関より指定申請書が提出され、令和6年度第2回鳥取県肝炎対策協議会において承認されたと報告があり、本県の肝疾患専門医療機関は20施設となった。
- ・令和7年度肝臓がん検診従事者講習会及び症例研究会については、7月20日(日)東部地区で開催予定の鳥取県医学会ランチョンセミナーでの開催が決定した。

挨拶（要旨）

〈孝田委員長〉

皆様、お忙しい中、お集まりいただき感謝する。天候に恵まれたが、寒暖差があるため体調管理にはご注意ください。本日も審議等、幅広い意見をお願いする。

報告事項

1. 令和5年度肝炎ウイルス検査事業実績及び令和6年度事業実績見込及び令和7年度事業実施計画について：

東原県健康政策課がん・生活習慣病対策室係長

(1) 令和5年度肝炎ウイルス検査の結果について

令和5年度は19市町村で実施し、対象者数205,618人（令和4年度210,599人）のうち、受診者数は3,857人、受検率は前年度と同じく1.9%であった。

検査の結果、HBs抗原陽性者は46人で陽性率1.2%（前年度0.8%）、HCV抗体陽性者は8人で陽性率0.2%（前年度0.3%）であった。

精検受診者は34人であり、精検受診率は63.0%で、前年度に比べ7.2ポイント増加であった。精検の結果、肝臓がんは前年度と同様に発見されなかった。

精検受診率の地区別では、東部92.3%、中部31.3%、西部68.0%であった。

（委員からの意見等）

- ・精密検査結果の健康指導対象者診断名について、分類が難しいと意見が出されたが、集計などの問題もあるため、現状どおりとする。よい案があれば提案いただきたい。
- ・診療所と比べ病院での精検受診率が低いため、病院ごとでの精検受診アラートシステムの検討が必要ではないかとの話があった。

(2) 肝臓がん検診により発見された肝炎ウイルス陽性者に対するの定期検査結果について（県事業の肝臓がん対策事業）

平成7年度から実施している、過去に検査で発

見された肝炎ウイルス陽性者に対する定期検査の結果は以下のとおりである。

HBs抗原陽性率は若年層59歳以下が高い傾向にあり、HCV抗体陽性率は、その年齢が上がるとともに高い傾向である。

令和5年度に実施した妊婦健康診査における肝炎ウイルス検査受診状況については、妊婦健康診査受診者数は3,134人が受診し、検査の結果、HBs抗原陽性者は6人、HCV抗体陽性者は0人であった。精検受診者は5人であり、精検受診率は83.3%で、精検の結果、4人は無症候性キャリア、1人はその他の疾病であった。精検未受診者については、もともとキャリアであったため、精検不要とされた。

(3) 令和6年度実施見込み及び令和7年度実施計画について

令和6年度の受診予定数は国庫事業の肝炎ウイルス検査は3,843人、市町村単独事業は1,028人の見込みである。

令和7年度実施計画は国庫事業の肝炎ウイルス検査は3,894人、市町村単独事業は1,013人を計画している。

2. 令和5年度肝臓がん検診発見がん患者追跡調査結果について：孝田委員長

(1) 令和5年度肝炎ウイルス検査からは肝臓がんは発見されなかった。また、令和5年度定期検査による肝臓がんまたは疑いは、7例について調査を行った結果、今回新規が6例、B型肝炎ウイルス陽性者から肝臓がん1名、C型肝炎ウイルス陽性者から肝臓がん3名、血管腫1例、肝臓がん疑い1例であった。

(2) 平成10年度～令和4年度肝炎ウイルス陽性者

区 分	健康指導対象者 (人)	定期検査受診者数 (人)	定期検査 受診率	定期検査結果（人・%）		
				慢性肝炎	肝硬変	がん
B型肝炎ウイルス陽性者	1,847	913	49.4	146 (16.0)	10 (1.1)	3 (0.3)
C型肝炎ウイルス陽性者	582	255	43.8	28 (11.0)	5 (2.0)	8 (3.1)

※肝臓がん11人（確定診断後の経過観察含む）

定期検査による発見がん追跡調査報告では、生存率について提示はされなかったが、傾向に変化はなかった。ラジオ波焼灼療法が減少し、肝切除、分子標的薬での治療が増加している。

3. 鳥取県肝疾患専門医療機関の指定変更について：

東原県健康政策課がん・生活習慣病対策室係長
鳥取県肝疾患専門医療機関の指定について、東部1医療機関より指定申請書が提出され、令和6年度第2回鳥取県肝炎対策協議会において承認された。本県の肝疾患専門医療機関は20施設となった。

4. その他

(1) 令和7年度の肝炎・肝がん対策関連事業概要について：

東原県健康政策課がん・生活習慣病対策室係長
○令和7年度は、令和6年度の肝炎・肝がん関連事業を継続実施する。引き続き市町村及び肝疾患診療連携拠点病院等と連携しながら肝炎対策を推進していく。また、肝炎医療コーディネーター養成研修会についても、県民の方への肝炎ウイルス検査の受診勧奨やキャリアや患者の方に対する適切な保健指導、患者本人やその家族等からの肝疾患に関する各種の相談を受けることができる人材として「肝炎医療コーディネーター」の育成をするために行っていく。

(2) 75歳未満がん年齢調整死亡率について：

上田県健康政策課がん・生活習慣病対策室課長補佐
国立がん研究センターが令和5年の75歳未満がん年齢調整死亡率を公表した。

鳥取県の男女計の死亡率は、令和5年は62.9（前年73.7）で全国17位（前年41位）となり、第3次県がん対策推進計画の目標値70.0を達成した。男性の死亡率は81.4（前年89.2）で全国29位

となり、3年連続で計画目標値（90.0）を達成した。女性の死亡率は45.6（前年59.4）で全国3位となり、計画目標値（50.0）を達成した。

肝臓がんの男女計の死亡率は3.8（前年3.3）で、前年の全国17位から36位と悪化した。男性の死亡率は5.9（前年4.3）で、前年の全国4位から26位と悪化した。女性の死亡率は2.0（前年2.3）で、前年同様全国44位であった。

(3) 県の来年度当初予算について：

上田県健康政策課がん・生活習慣病対策室課長補佐

がん対策推進事業の令和7年度予算案について報告された。がん対策事業については、ほぼ同規模で実施予定である。がん予防、がん医療の充実、がんとの共生を3本柱として、引き続き総合的ながん対策を推進していく予定である。

(4) 肝臓がん検診精密検査登録医療機関登録更新について

健対協事務局より、肝臓がん検診精密検査登録医療機関は3年に1回更新を行うこととなっており、令和6年度中に更新及び新規申請を行っていただくよう、全医療機関には周知していると説明があった。

協議事項

1. 令和7年度肝臓がん検診従事者講習会及び症例研究会について

岡田委員より、令和7年度肝臓がん検診従事者講習会及び症例研究会については、7月20日（日）東部地区で開催予定の鳥取県医学会において、「ランチョンセミナー」として行いたいと提案があった。協議の結果、了承され、講師については、大山賢治先生にお願いすることとなった。

肝臓がん検診従事者講習会及び肝臓がん検診症例研究会

日 時 令和7年3月1日(土)
午後4時～午後5時40分

場 所 倉吉交流プラザ 倉吉市駄経寺町

出席者 90名(医師:86名、その他:4名)
岡田克夫先生の司会により進行。

講 演

鳥取県健康対策協議会肝臓がん対策専門委員会
委員長 孝田雅彦先生の座長により、岡山市立市
民病院副院長 狩山和也先生による「食事性肝障
害と新規肝線維化スコアFIB-3 index」の講演が
あった。

症例検討

鳥取県済生会境港総合病院 岡野淳一先生の進
行により、3地区から症例を報告していただき、
検討を行った。

1) 東部症例(1例): 鳥取赤十字病院

松木由佳子先生

2) 中部症例(1例): 鳥取県立厚生病院

三好謙一先生

3) 西部症例(1例): 鳥取大学医学部附属病院

永原天和先生